

地震とメディア

1年2組 池田 奏 1年2組 大栗 楓希 1年2組 兵頭 龍一
1年2組 岡本 康聖 1年3組 山本 貴也 1年4組 吉見 広平
指導者 井上 真介 西岡めぐみ 松田 彩 渡部 陽子

1 課題設定の理由

巨大地震は地域に、特に宇和島にどのような影響を及ぼすのか。現在、宇和島市では宇和島城が避難場所の一つに指定されており、私たちは漠然とした不安を抱え、防災避難訓練に取り組んできた。特に、昨年4月に発生した熊本地震は、私たちに地震の恐ろしさを再認識させ、中でも熊本城が大きな被害を受けた様子がテレビや新聞で大きく取り上げられた。このことから、新聞やテレビなどメディアの報道が震災直後から月日が経つにつれてどのような変化をしていくのか、また宇和島城が被害を受けた場合宇和島市にどのような影響を及ぼすかに関心を持ち、この課題を設定した。

2 仮説

- (1) 市内は地震、津波による建物の崩壊は避けられないので、避難場所として宇和島城に非常に多くの人々が殺到すると考えられる。そのため、地震発生時にどれくらいの時間で天守に到着できるのかという指標となる記録が必要であると考えた。
- (2) メディアの報道は月日が経つにつれて被害状況から復興や被災地への援助などに変わっていく。

3 調査方法

- (1) 宇和島城に実際に登り、時間や収容人数の目安を割り出す。
- (2) インターネットや新聞で南海トラフ巨大地震の被害予想について調べる。
- (3) 新聞記事で熊本地震後の報道の変化を追い分析する。(対象「愛媛新聞」)

4 結果

- (1) 宇和島城の防災機能について

宇和島城の天守閣がある広場（約 6000 m²）を畳一枚（1枚につき約 2人分）で測ってみると約 3500人収容できることが分かった。

また、宇和島城に4通りの方法（表1）で登った（上り立ち門～天守閣広場まで）。

表1 宇和島城への登頂方法

方法	1.歩く	2.走る	3.物を背負って (10 kg)	4.人を背負って (55 kg)
かかった時間	8分	5分	11分	17分

- (2) 熊本地震の報道の変化

熊本地震の記事の総数と種類をまとめた（図1）。

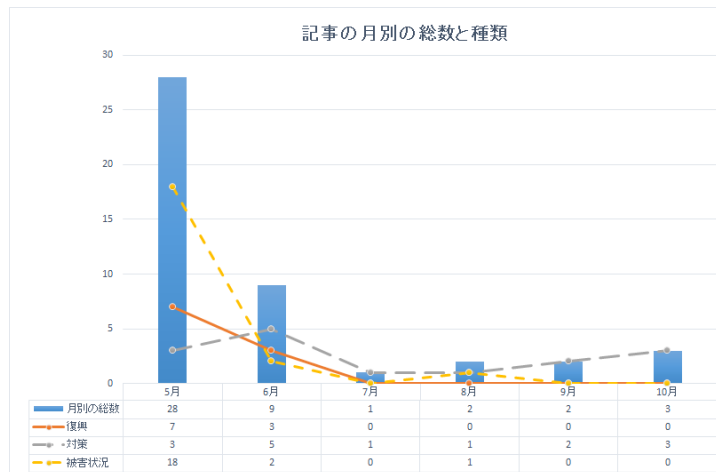


図1 メディアによる報道の変化
(愛媛新聞より引用)

(3) 熊本地震と比較しての南海トラフの被害想定・復興へ向けて

熊本地震では、倒壊の被害を受けた熊本城などの歴史的遺産の復元が、復興の予算の大部分を占めている。「南海トラフ地震の被害想定」によると宇和島では、南海トラフ巨大地震で宇和島城が倒壊したり熊本地震では起きなかった津波が太平洋から直接押し寄せてくるため宇和島城の復興、津波などによる被害等で熊本地震以上の被害が予想されている。宇和島は熊本と比べて規模が小さい町であるため、復興へは莫大な時間と費用が必要になると予想される。

5 考察と今後の課題

宇和島城へは避難場所としてたくさんの方が殺到すると考えられる。しかし、宇和島城は約3500人しか収容できない。たくさんの方が殺到し頂上までの道が混雑する可能性があるために津波到達時間(29分)までに逃げ切れない可能性がある。そのため、新しい避難場所を見つけ、さらに市立病院等の病院や近くの学校などとの連携の仕方を探るのが今後の課題である。

また、仮説の通りメディアの報道は時間が経つにつれて被害から復興への呼びかけに変わっていった。さらに、取り上げていく記事も少なくなっていく。その中でどのようにして復興していくのか。そして、自分たちがどのように関わっていけばよいかを考えていくことも今後の課題として取り上げ、メディアと災害の関係性をさらに深く探っていきたい。

参考資料

- ・熊本城ホームページ wakuwaku-kumamoto.com/castle/
- ・南海トラフ地震の被害想定 http://www.asahi.com/special/nankai_trough/
- ・宇和島市ホームページ www.city.uwajima.ehime.jp
- ・愛媛新聞 (2016年5月1日～10月31日)